

## 復興推進会議（第36回）議事録案

1 日 時：令和4年12月27日（火） 9:42～9:55

2 場 所：官邸2階 大ホール

3 出席者：

【議長】岸田文雄内閣総理大臣

【副議長】秋葉賢也復興大臣<進行>

【議員等】高市早苗国務大臣、林芳正外務大臣、鈴木俊一財務大臣、斉藤鉄夫国土交通大臣、河野太郎デジタル大臣、加藤勝信厚生労働大臣、松野博一内閣官房長官、野村哲郎農林水産大臣、後藤茂之国務大臣、谷公一国務大臣、永岡桂子文部科学大臣、岡田直樹国務大臣、西村明宏環境大臣、小倉將信国務大臣、木原誠二内閣官房副長官、磯崎仁彦内閣官房副長官、小島敏文復興副大臣、竹谷とし子復興副大臣、柘植芳文総務副大臣、太田房江経済産業副大臣、小林茂樹環境副大臣、中野英幸復興大臣政務官、山本左近復興大臣政務官、高見康裕法務大臣政務官、小野田紀美防衛大臣政務官、栗生俊一内閣官房副長官、近藤正春内閣法制局長官

4 配布資料

資料1 福島国際研究教育機構（F-REI）の設立準備状況について

資料2 福島国際研究教育機構に関する関係閣僚会議の開催について（案）

参考資料1 復興推進会議構成員

参考資料2 復興推進会議（第35回）議事録案

5 議 事

(1) 福島国際研究教育機構（F-REI）の設立準備状況について

(2) 福島国際研究教育機構に関する関係閣僚会議の開催について

○秋葉復興大臣 皆さん、おはようございます。

ただいまから第36回「復興推進会議」を開催いたします。

本日の議事は、福島国際研究教育機構（F-REI）の設立準備状況につきまして、及び、福島国際研究教育機構に関する関係閣僚会議の開催についてであります。

それでは、まず、議事1「福島国際研究教育機構の設立準備状況について」、私から御報告いたします。お手元の資料1を御覧ください。

まず、1ページでは、これまでのF-REIの設立準備状況を時系列で示しています。

次に、2ページは、令和5年度のF-REI関連事業の予算概算決定額及び事業の内容などを

取りまとめたものです。

共管省庁・関係機関が連携して取り組む研究開発・産業化・人材育成などの取組について、初年度から十分な取組ができるよう総額146億円を計上するものです。

個別の研究開発の取組については、3ページにまとめています。

4ページは、令和5年度税制改正の概要です。

F-REIの運営及びF-REIとの共同研究などに関して、所要の税制措置を講じることとしています。

5ページは、4月の法人設立に合わせて、F-REIに指示することになる中期目標の今後の策定スケジュール等を示したものであります。

最後に、6ページは、F-REIの第1期中期計画期間を通じたロードマップのイメージを示したものです。

F-REIの第1期中期計画期間における事業規模として1000億円程度を想定しているところです。

外部委託等を活用して、初年度から十分な機能発揮を目指すとともに、段階的に直接雇用による研究開発などの体制を整備してまいります。

施設の整備についても、引き続き必要な取組を進め、供用開始時期の可能な限りの前倒しに努めてまいります。

以上で報告を終わります。

続いて、議事2「福島国際研究教育機構に関する関係閣僚会議の開催について」に入ります。資料2を御覧ください。

本会議の下に、F-REIに関する関係閣僚会議を開催し、政府を挙げてF-REIの長期・安定的な運営に必要な施策の調整を進める体制を強化するものです。

本案の決定に御異議ございませんでしょうか。

(「異議なし」と声あり)

○秋葉復興大臣 それでは、本案について、本会議決定といたします。ありがとうございました。

続いて、各大臣から御発言をお願いいたします。順番に指名させていただきます。

まず、永岡文部科学大臣。

○永岡文部科学大臣 福島国際研究教育機構については、私も主務大臣の一人として、関係機関との連携の下、同機構準備室に職員を5名派遣するとともに、放射線科学・創薬医療分野において、放射性同位元素の先端的な医療利用及び創薬の技術開発を推進し、環境動態分野において、放射性物質の環境動態の解明や取組の発信を進めるなど、今後実施をする研究開発等について引き続き検討を進め、復興庁を中心とした来年度の機構の設立に向け、しっかりと協力してまいります。

以上です。

○秋葉復興大臣 ありがとうございました。

続いて、加藤厚労大臣。

○加藤厚生労働大臣 福島国際研究教育機構において研究開発が予定されている標的アイソトープ治療は、先般、策定された新産業創出等研究開発基本計画にも示されているとおり、転移がん、進行がん等への革新的治療法となることが期待されています。こうした革新的な治療法の実用化を目指し、機構における取組が東北、そして、日本全体の成長に資するよう、復興庁・関係省庁と連携し、尽力をしております。

○秋葉復興大臣 ありがとうございます。

続いて、野村農水大臣。

○野村農林水産大臣 農林水産省は、震災以降、福島県において営農再開などの農林水産業の復興・再生に取り組んでまいりました。福島国際研究教育機構においては、被災地の農林漁業者や市町村の方々の意見をしっかりと踏まえ、福島県や世界に共通する課題の解決に貢献する新たな生産システムの実証研究を推進してまいります。

復興庁や関係省庁と連携して、福島国際研究教育機構が被災地の創造的復興に資するものとなるよう取り組んでまいります。

以上でございます。

○秋葉復興大臣 ありがとうございます。

続いて、太田経産副大臣、

○太田経済産業副大臣 ありがとうございます。

経済産業省は、研究開発テーマとして、ロボットやエネルギー、放射線の産業利用等を提案しており、引き続き令和5年度からの本格的な実施に向けて準備を進めてまいります。

また、研究開発成果の産業化や地元での雇用創出に向けて、福島浜通りの土地を最大限に活用した実証・実装フィールドの整備、復興まちづくりにおける最先端技術の活用や大胆な規制緩和などを進めていきます。

F-REIが福島イノベーション・コースト構想の具現化を進めるための中核的存在となり、福島の創造的復興に資するよう、引き続き関係省庁と連携をして積極的に参画してまいります。

以上です。

○秋葉復興大臣 ありがとうございます。

続いて、西村環境大臣。

○西村環境大臣 福島の復興・再生は、環境省の最重要課題であります。新たに設置される福島国際研究教育機構が、福島をはじめ東北の復興を実現する拠点となるよう、環境省としても、放射性物質の環境中の挙動解明に関する研究を通じた環境回復や、地域の水素ネットワークの構築を通じた脱炭素と災害に強いまちづくりに全力で貢献してまいります。

以上です。

○秋葉復興大臣 ありがとうございます。

続いて、高市国務大臣。

○高市国務大臣 ありがとうございます。

F-REIが、福島における新たな産業の創出や東北の復興のみならず、世界に冠たる創造的復興の中核拠点として大きく貢献することを期待しています。

第6期科学技術・イノベーション基本計画などに基づく我が国の科学技術政策を推進する観点、また、第2期健康・医療戦略に基づく医療分野の研究開発を推進する観点から貢献をしてみたいと存じます。

以上です。

○秋葉復興大臣 ありがとうございます。

松野官房長官から一言お願いいたします。

○松野内閣官房長官 福島国際研究教育機構は、福島をはじめ被災地の夢や希望となるものであり、我が国の経済成長や国民生活の向上にも貢献することを目指す政府の最重要施策の一つです。ただいま決定された関係閣僚会議の議長として、関係各大臣とともにF-REIが科学技術・産業競争力の強化、さらには人材育成等の面でも我が国を牽引する取組となるよう、その長期・安定的な運営に向けて、政府内の必要な施策の調整を図ってまいります。

以上です。

○秋葉復興大臣 ありがとうございます。

発言はここまでとさせていただきます。ここでプレスを入れます。

(報道関係者入室)

○秋葉復興大臣 それでは、ここで総理からお願いいたします。

○岸田内閣総理大臣 東日本大震災から11年以上が経過する中、復興は着実に進展していますが、その一方で、原子力災害からの復興・再生には、今後も中長期的な対応が必要です。その中で「創造的復興」の中核拠点となるべき福島国際研究教育機構、F-REIについては、来年4月の設立に向け、関係府省庁の全面的な参画の下、人的体制の整備をはじめ、F-REI設立後の長期・安定的な運営を支える組織体制・財政基盤の構築について、政府を挙げて取り組むこととしてきました。

F-REIの成功は、我が国の科学技術力・産業競争力の強化を図る上でも欠かせないものであり、与党からも積極的な推進を求める提言をいただきました。本日の会議では、F-REIの設立に向けた準備状況を共有し、令和11年度までの第1期中期計画期間に係る事業規模を1000億円程度と見込むこととお示ししました。

また、復興庁の設置期間終了後も見据えた長期・安定的な司令塔機能として、本会議の下に、内閣官房長官を議長とする「福島国際研究教育機構に関する関係閣僚会議」を開催することを決定いたしました。

今後、F-REIが福島・東北の復興を実現する夢や希望となるとともに、我が国の科学技術力・産業競争力の強化を牽引する存在となるよう、福島をはじめとする関係機関と連携しながら取組を進めていただきたいと思います。

また、福島復興はいまだ途上にあり、その長期的な課題に対応していくため、F-REIをはじめとする息の長い取組を支援できるよう、復興に要する財源については、政府を挙げて責任を持って確実に確保してまいります。

「東北の復興なくして、日本の再生なし」、引き続きこの強い決意の下「閣僚全員が復興大臣である」という意識で、被災地の復興に取り組んでください。

以上です。

○秋葉復興大臣 どうも総理、ありがとうございました。

それでは、報道関係者の皆さんはここで退席願います。

(報道関係者退室)

○秋葉復興大臣 それでは、本日はここまでとさせていただきます。どうもありがとうございました。

(以上)